

無量壽

第十三号 (二〇一五年四月号)
発行 雲夢山壽命寺



雨の重みに耐える門前の桜。曇天のグレーに淡いピンクが美しく映えていました。(2015/04/05 住職撮影)

永代経法要 5月17日(日) 【ひる】14:00～【よる】19:30～

今年も永代経の季節です。

毎年ご紹介している通り、永代経とは仏法にお経が永代に渡って引き継がれていくように願って勤められる法要です。広げればそのお経を読み聞いて学ぶ道場であるお寺の護持発展を願う法要とも言えます。

私達が今、本堂で膝を並べて法要を勤められるのは、たくさん先の先人のご苦勞があつてのこと。その御恩は計り知ることができません。そのようにして私達の元まで届いてくださったお念仏のみ教えを次代に伝えるには、まずは今を生きる私達がしっかりとそれを受け取り、味わうことが肝要です。そうすればその姿を通して、自ずとお念仏が伝わっていくはずですよ。

上記日程で勤めますので、どうかお誘い合わせの上お参りくださいますよう、ご案内申し上げます。

【講師の紹介】

釋迦浩爾(しゃかこうじ)師



昭和四十一年五月三日生まれの四十九歳。高島市鹿ヶ瀬の淨願寺のお生まれで、現在は同寺のご住職を勤められています。また本願寺派布教使であると共に、布教研修の講師も勤められています。

れています。

大変優しく穏やかな語り口の先生ですが、趣味はなんとハードロックとのこと！どんなお話をお聞かせいただけるか、今から楽しみです。

職法

経理のおしごと

住職は平日会社勤めをしていまして。最近人事異動があり経理担当になりました。しかし経理なんて未経験。全く畑違いの仕事に悪戦苦闘の毎日です。

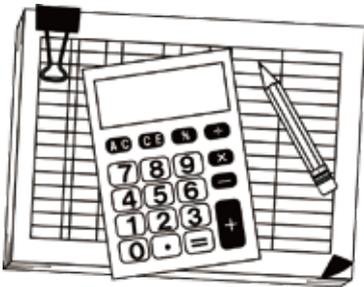
でも新しいことにチャレンジすると新しい発見もあるんですね。会社の経理には「複式簿記」の知識が必要不可欠です。会社に勤めている人やお店を営んでいる人からすれば今更何をという感じでしょうが、これが結構奥深いんです。

例えばスーパーで五百円分の野菜を買ったという取引を、家計簿(単式簿記)なら適用欄に野菜と書いて支出欄に五百円と記すだけです。それに対して複式簿記では、これを「現金が五百円減った」「五百円分の商品を仕入れた」と二つの側面から記録します。家計簿はお金がいくら入っているかという、今いくら残っているかということしか把握できませんが、複式簿記をつけておくとお金の増減だ

けでなく、それによってどれだけ利益がでたのか、資産状況はどうなっているのかということまで数字ではつきり把握することができるとです。ホント、この仕組みを考えた人は天才だな!と感心するばかりです。

それで思ったんです。この複式簿記の見方をお金のこと以外にも応用できたらどれだけいいだろうかと。私達は毎日の暮らしの中でいろんなことを見聞きして、いろんなことを思います。でもその記憶は多分家計簿のような単式簿記方式になっていないのではないのでしょうか。

例えば誰かにきついことを言われた時、私達は往々にして反感を覚え、相手を嫌い遠ざけようと思います。でも言った方は



私の為を思つてあえてキツイ言葉を投げたのかもしれない。複式簿記の目で冷静に物事を見ることのできればそのことに思い至り、相手に感謝することだつてできませんよ。でもなかなかそうは行きませんよ。その時の感情に支配され、自分の都合という一方からしか物事を見れなくなつてしまひます。縦しんば相手の立場に思いを

はせたとしても、やはり最後には「何もあんな言い方をしなくても」と自分を正当化します。複式簿記では貸方と借方の数字が一致していないと帳尻が合わなくなり、自分の都合と相手の都合を同等に見るということは私達には至難の業のようです。

こういう自分の都合でしか物事を見る事ができない私達の姿を、仏教では「無明」とか「盲冥」と言います。世の中を一方からしか見れないから、真実の道理に暗いと言ふのです。さらに悲しいのは見えていないのに見えているつもりという事です。だから自分が正しいと譲らず諍いを繰り返す。なんとも情けない姿です。

弥陀成仏のこのかたは
いまに十劫をへたまへり
法身の光輪きはもなく
世の盲冥をてらすなり」
(浄土和讃)



お家のお仏壇の阿弥陀如来の絵像をご覧いただくと、頭部から光が描かれています。あれは阿弥陀如来の智慧の光です。その光をもつて私達の無明を照らすのです。

光に照らされたからと言って私達が単式簿記しかできないことには変わりありませんが、それしかできないことを知らされるのです。その自分の姿に気づくことができたなら、冷静になつて自分を顧みて、そこからまた相手を敬う心を起こすことができます。

新しい仕事は大変ですが、大切なことに思いを至らせてくれました。日常のあらゆるところに阿弥陀如来のおはたらきがあると感じました。有難いことです。

南無阿弥陀仏。